

【研究ノート】

**労働に関わる落語と漫才
バイキングは楽しく／老働／コンサルティングします**

増 田 辰 良

研究ノート

労働に関わる落語と漫才

バイキングは楽しく／老働／コンサルティングします

増田辰良

1. 落語 「バイキングは楽しく」

— 高齢化社会ということで年金をもらう歳になっても、あるいは年金をもらいながら働いている高齢者の方たちが増えているそうですね。その理由の多くは経済的理由であったり、生活の糧を稼ぐことだそう。年金だけでは足りないことですよ。今は、六十五歳から年金が満額支給されますが、これを七十歳、七十五歳まで伸ばさうという案もあるそうで。まあ、人間、元気なうちは家の外で他人様のために働くということは、本人にとっても社会にとってもいいことだと思えますよ。それで考えてみました。六十五歳以上の高齢者たちに適した仕事として、どんなものがあるかって。

よく、男性の方でサラリーマンを定年退職されてから個人タクシーの運転手になられる方もいますが、やはり高齢ですから運動神経がだすねエ、少し鈍ってまいりますので、とっさのブレーキやハンドル操作には不安もあります。女性ですと、ビルの清掃とかスーパールの食品を並べるようなパートをされてる方をよく見かけます。で、高齢者の一日の生活時間を見ていると、どなたにも共通なのは朝が早いということですね。とにかく朝の目覚めが早いですよ。鶏みたいに朝の三時に起きて、お茶を飲みながら「新聞はまだこんかア」と文句を言

ってるお爺さんもいます。朝が早い分、夜も早いですね。七時にはもう布団に入っていると。ですから高齢者に適した仕事は朝早くて午前中で終わる仕事だ、と私は思うのですよ。私、これを見つけたア。バイキングです。バイキングと言ってもお爺ちゃんやお婆ちゃんが船に乗って他国を攻める、人の物を奪うという、あの海賊ではありませんよ。ホテルに泊まると、朝、よくバイキング形式の朝食がありますよね。色んな料理がテーブルに並んでいて、好きな物を自分でよそおってきて食べるというあれです。ホテルによれば六時三十分からレストランで食べれます。まあ、遅くても七時から九時くらいまでは食べれるように食事の時間が設定されていますよ。この時間の間であればいくらでも食べていいという。そうすると、その料理の準備時刻を逆算するとですね、五時頃からやってくるんじゃないでしょうか。仕込みなんかを。この五時、高齢者にとっては都合な時間じゃないですかア。朝飯前のパート。食事の準備ですから、ここで働きたいというお婆ちゃんを投入するのですよ。

M (マネージャー) おはようございます。これよりバイキング

キーワード：労働、高齢社会、副業、落語、漫才

M マツ を担当していただく方の点呼を行います。赤井マツさん！
 M マツ はい！
 M マツ 太井タケさん！
 M タケ はい！
 M ウメ 紀州ウメさん！
 M マツ はい！
 M マツ みなさん、おそろいですね。マツさん、風邪の具合はどうですか？
 M マツ (かすれた声で) はい、昨夜は身体もきつかったです、この朝方にはだいたいおさまりまして、昼頃には回復するでしょう。
 M マツ マツさん、あなたねエ、天気予報のお姐さんじゃないのですから。昨日、風邪気味だとおっしゃってましたから、お聞きしたので。回復しそうであればけっこうです。でも、声がずい分とかすれてますが？ 森進一みたいですよ。
 M マツ ♪お袋さんよ、お袋さん、山をみあげりゃ♪
 M マツ マツさん、歌真似はしないでいいですから。
 M マツ えッ、すみません。
 M マツ まだ、風邪が治りきってないんじゃないか……。
 M マツ 実は応援のし過ぎで。とくに昨夜は……。
 M マツ 応援？ 応援と言いますと。
 M マツ はい、広島東洋カープの応援です。カットバセ！ セイヤー
 M マツ (誠也)！
 M マツ その声、この世のものとは思えません。
 M マツ はい、「神ってる」。
 M マツ 神はいいですから、で、お身体の具合は？

M マツ はい、身体はいたって元気でございますが、今朝はちょっと手が震えたり、目がかすんだり、左足がしびれる以外は元気はつらつオロナミンAです。
 M マツ んんッ。それじゃあ、まだ風邪が治ってませんよ。微熱があるでしょう。野球の応援よりも風邪を治してください。それからオロナミンはCですよ。Aではなくて、カープのCです。
 M マツ ええッ(A)？ 知(C(シー))りませんでした。
 M マツ シャレはいいですから。もうマツさんはいいですよ。次のタケさん、心臓のお薬を忘れずに七時三十分頃に飲んでください。忘れないように。勤務中に倒れると大変なことになりますから。昨日はフラフラされて、こちらが冷や汗をかきましたよ。
 M タケ はい！
 M タケ 分かりましたか？
 M タケ はい！
 M タケ 返事だけはいいですけど、忘れないように、お薬を。
 M タケ はい、今朝は忘れないように、もう全部飲んでおきました。それはだめでしょ。お医者様に言われているとおりの時刻に飲まなければ。それから、これはお客様からのアンケートで、タケさんに一つだけ聞いていただかなければならないことがあります。
 M タケ 何か、ただけのですか。すみません。できれば金一封でいただきたいです。
 M タケ いいえ、小言を差し上げます。あなた、昨日、お客様が落とした巻き寿司の具を拾ったそうですね。

タケ はい？

M として、汚れたその具をお客様に見せて、何て言いましたか？

タケ 記憶にございません。

M あなた、「ばいきんく細菌食う」って言ったそうですね。

タケ はッはい。思い出しましたア。干瓢かんひょうです。お客様は喜んで、「座布団二枚」って。なかなかシヤレの分かるお客様でエ。

M 二度と言わないように、その場ではどうもなくてもお客様は嫌な思いをされることもありますから。それからウメさん。ウメさん！

ウメ はい、マネジャーさん。

M お身体の調子はどうですか？ ご高齢でかつ低血圧ぎみで朝が弱く辛いとお聞きしますが。

ウメ はい、マネジャーさん。このままでは午後から雨になりますか？

M はッ？ ウメさん、雨って？

ウメ 低気圧が来ると。

M 違います。低血圧ですよ。血圧です。いえ、もういいです。体調は良さそうですね。

ウメ はい、マネジャーさん。

M ウメさん、この中であなたが一番の経験者、勤務日数が長いのですから、他のマツさん、タケさんのご指導もお願いしますよ。

ウメ はい、マネジャーさん。でも、私は一番下ですが。

M 一番上ですよ。マツさんは七十二歳、タケさんは七十五歳で、この仕事を初めて五日目です。ウメさんは八十歳で、この職場での勤務日数が長いですから、お二人の先輩格です。

ウメ いいえ、松・竹・梅で一番下です。

M そんな語呂合わせじゃなくてエ。

ウメ でも、気になります。マネジャーさん。

M そんなことは気になさらないように。それよりも今日こそは修正させていただきますが、ウメさん、何ですか、そのマネジャーって。私を呼ぶときはちゃんとマネージャーと呼んでください。この職場に長いのですし、マツさん、タケさんにもしめしが付きません。

ウメ はい、マネジャーさん。マネジャーさんの本名は招木猫まねきねこ、いや招木次郎まねきじろう、略して、マネジャー。

M 本名を覚えてくれたことには感謝しますが、マネジャーじゃなくて……、いいですかア、(人差し指を唇に当て)私のこの口の動かし方をよく見てください。

ウメ はい。マネジャーさん。

M マネーで一回切って、ジャーです。はい。

ウメ マーネジジャーヤ。

M 違います。はい、もう一度。

ウメ マネ、マネ、マネシーヤ、マネシーヤ。

M そう、私の口の動かし方を真似してください。マネーで切って、ジャー。

ウメ ママジャー。マネジャー。

M それではほとんど変わってません。よく、見てください。この口、この唇の動きを。

ウメ マネジャーさん、いいですか？

M 何ですか？ 話の腰を折って。

ウメ 唇の色が悪いですねエ、いっぺん医者に診てもらえばどうですか。

マツ じゃ、朝ご飯ぐらい食べさせてもらってもいいでしょ。
 M 少しくらいなら、食べていただいてもいいですよ。でも、あ
 M なたたちは毎朝、食べてますよ。それもすっかりと。タケさ
 M んなんか、三日前にはタツパを用意しましたよね。
 タケ 少しだけ、いただいで帰ろうかと。
 M ダメですよ。それじゃ泥棒ですから、決して持ち帰らないよ
 うに。
 ウメ マネジャーさん。いいですかア？
 M 何ですかア？ 何がいいのですか？
 ウメ だってエ、今は七時二十分前、家では朝食の時間ですし。
 M 違います。あなた方はこの料理をお泊りのお客様に食べてい
 たくよう運ぶのです。
 ウメ (Mを無視して) マツさんもタケさんも一緒に。このシ
 ューマイ、けっこう美味しいわよ。
 マツ あア、お爺さんも連れてきてあげればよかったア、こんな
 に美味しい料理がたくさんあるのに。私だけでいただいて
 エ。
 M 止めなさい！
 タケ じゃア、このシューマイを食べて、もうお終しまい(笑)。
 M シャレも食事も止めなさい！ でなければ首を切ります！
 ウメ マネジーさん。年寄りに向かって何てことを。
 マツ マネジーさん。
 M 何ですか、マツさんまで真似して。
 マツ 首を切る前にマネジーさん、鼻毛を切りなさい。
 M 鼻毛？
 マツ チョロツと一本、出てまゝす。

タケ 右の鼻から見ツ毛。
 M (鼻を手で隠し) はいはい、ご指摘、感謝します。ところで、
 タケさん、その右手に持っているのは何ですか。
 タケ はい、これは数珠じしゆです。
 M ええッ！ あなたねエ、数珠を持って厨房へ入ってこないよ
 うに。縁起でもない。
 タケ 今日お爺さんの命日でございまして。私、もう一日でも早く
 爺さんの所へ行きたくてエ。
 M 無理を言わないように、そのうち必ずお迎えが来ますから、
 数珠はポケットに仕舞ってください。はい。では、あと五、
 六分で七時です。バイキングの開始時刻です。みなさんはお
 客様が食事をされている間、ときどき料理台を見に行って、
 料理の少なくなっているお皿があれば下げたり、追加の料理
 を盛り付けてくださいよ。料理台へ追加の料理を運ぶときは
 足下に気をつけてくださいね。転ばれるとせつかくの料理が
 台無しですから。また、すべてセルフサービスですが、食べ
 終わった食器をテーブルに残されたままお帰りになるお客様
 もいます。その食器も片づけてくださいね。よろしいですか。
 マネジーさん、マネジーさん。
 M どうされましたか、マツさん。
 マツ 台がないって、運んだ料理はどこへ並べればいいのですか。
 マツ んんッ。ちゃんと台はあります。それ、あそこを見てください。
 M あア、あります、よかったです。
 M 先程も注意しましたが、むやみにお客様に声をかけないよう
 に、お願いしますよ。お客様はご自分のペースで食事をされ
 ていますから。分からないことや気がついたことがあれば、ウ

メさんに相談してください。勤務日数が一番長くて要領を心得ていらっしやいますから、ウメさん、よろしく頼みますよ。
 (腕時計を見て) さあ、七時になりました。お客様が入ってこられますよ。私は総務部に戻りますので、後はみなさん方で、よろしく願いますー。

ーと、マネージャーは奥へ引っ込みます。マネージャーにそれほど注意されても、それを頭に残さない、頭に残らないのがお年寄りの特権といえますか、強みといえますか。三人は厨房への入り口からレストランの様子を見ています。他人様たにんさまの食事の仕方を見ていると母親のような老婆心が起こり、つい声をかけたくなるのですねエ。とくに勤務日数の長いウメさんは。

マツ あら、あのOL風の女、野菜を取らずに、炭水化物ばかり食べてる。
 ウメ どこ？

マツ 右側の壁際にいる、あの女の子よ。
 タケ そうねエ。朝から焼きそば、天ぷら、コロッケ、ご飯に味噌汁。

(ウメさんの動きに気づき) ちよつとオ、ウメさん止めなさい。マネージャーに言われたでしょ。口出ししないって。ウメさん！

ウメ お客さん。
 OL はッ？

ウメ 炭水化物ばかりじゃなくてエ、お野菜も食べなきゃ、身体に悪いわよ。あなた子供を産む身なのよ。料理台から、ブロッコリー、パセリ、トマト、パプリカを取ってきなさい。

(六)

OL はッ？ あーラ、すみません。普段、家で摂るのと同じ食事にしてますのよ。

ウメ (きつく) しつかり野菜も摂りなさい。食事の基本はバランスよ。

OL はッはい。ご忠告、ありがとうございます。
 ウメ ホント、最近の若い女の子は自分の身体に気配りしないから、もう。

ーと、捨て科白を残して厨房の入り口へ戻ってきます。しばらくするとまた気になるんですねエ。

タケ あの中年で小太りなサラリーマン風の男の方も野菜を食べずに、コーヒーを三杯もお替わりして、トーストとゆで卵しか摂ってないわ。卵を三個も。

ウメ どこよ？ どこ？
 タケ そら、ドリンクコーナーを背にしている、あのツル天ピーカてんぴーかのオ。

ウメ あア、あのシャツを腕まくりしている逆童さかやうぼたなの人ね。

タケ そう。お頭の光っている人。あー、だめよ！ ウメさん、行っちゃア。

ウメ お食事中、すみません。
 男 はい。何でしょうか？

ウメ あなた、BMIの値が高いでしょ。
 男 はー。

ウメ 私には分かります。あなたは肥満ひいまん体です。このままでは肥満シヨックを受けます。

男 それを言うなら、(笑)リーマンショックでしょ、かつてあった。
ウメ んんっ。確実にBMIは三十を越えてますよね。

男 は、はい。医者からはそう指摘され、下げるよう指導されてます。

ウメ 他には？

男 はい、血糖値が高すぎると……。

ウメ だったら、そんな食事じゃなくて、最初に緑黄色野菜をたく

さん摂りなさい。料理台にプロッコリーやレタス、トマトがある

のでしょ。野菜は血糖値が上がるのを抑えてくれるから。

それに卵は止めなさい。コレステロールの塊ですよ。

男 卵？ これ捨てろ、つてですかア。

ウメ 何よりシャレてエ。卵を食べるのを止めなさいって言ってる

のよ。

男 は、はい。好きなもので、つい。

ウメ それよりも納豆とヨーグルトを摂りなさい。乳酸菌は大事よ

オ。そうねエ、ブルーベリーやオレンジなんかはヨーグルト

をかけて食べなさい。コーヒーも一杯だけにしなさい。

男 はッはい、やってみます。すみませんです。

— ウメさんは意気揚々と戻ってきます。

マツ ねえ見てよオ、あそこの隅のテーブルにいる学生風の集団。

タケ あらら、他の人たちの二倍も三倍も食べてる。

マツ テーブルと料理台を五分おきに行ったり来たりして。

タケ すごい食欲よ。手前のあの一番大きな身体の男、ご飯のお

替り三回目。それも大盛りで。

ウメ お相撲さんみたい。底なしね。

— と、放っておけばいいものをウメさんはまた口を挟みにいきます。

ウメ ねえ、あなたたちゾウのように食欲があることはいいいこと

だけどオ、他のお客さんが食べる料理がなくなってしまいそ

うなの。

学1 (きよとんと) お婆さん、だつて、これバイキングだよ。時

間のうちにいくら食べてもいいはずだけど。俺たち一〇〇〇

円払ったよなり、なり、みんな。

学たち そうそう、払った、払ったよ。

ウメ 限度があるでしょ。

学2 俺たちラグビーの大会があつて、この町に来てるんです、十

時から試合があつて、腹ごしらえ中です。

学3 試合の前に普段の二倍も三倍も食べないと体力がもたなくて

エ。今日の初戦は絶対に勝ちたいのですよ、なり、みんな。

学たち オー、オー、オー。

ウメ そう、そうなの。そんな事情があつたの。じゃア、しっか

り食べなきゃね。

学たち サンキュウー、サンキュウー、お婆ちゃん！

ウメ (笑) まさに、倍食^{ばいく}ング。

学たち (笑) お婆ちゃんに座布団三枚！ 三枚！

学4 でも、お婆ちゃん、僕たちだけじゃなくて、他のお客さんに

も食事の注意をしましたよね。

学1 もしかして、このレストランのチーフさんですかア。お婆ち

ゃんチーフ、かつこいい！

ウメ (笑) そんな立派な立場じゃないです。パートで、この食事

の準備を任されているだけよオ。

学3 嘘！ だって、振舞い方が王様のようなもの。

学たち チーフ、キング！ チーフ、キング！ チーフ、キング！

学2 みんなー、違うだろ!! ねえ、お婆ちゃん(笑)。

ウメ (笑) ババァキングって言いたいのね。

(了)

2. 漫才「老働」

漫才コンビT&Mが舞台へ登場する。

T はじめまして。T&MのTです。

M Mですー。

T お客さんから、よく訊かれるんですけど、僕たち二人の関係を。

そうそう。異母兄弟いぼきょうだいですかア、とか。

T いきなり、そんなことは訊かれないだろ。

M あるいは異父兄弟いふきょうだいですかア、とか。

T 何よ、それー。どっちにしろ、親が違う、訳ありな兄弟かい、僕らは。

M 世間は、そう見てる。

T (顔の前で手を左右に振り) 見てない、見てない。実はア、僕た

M ち兄弟ではありません。

M 姉妹でもありません。

T どこを見て、女の姉妹に見えるの？

(八)

M 間違える人もいるかもしれないし(女性の仕草)。

T その手つき、止めて。オネエに見えるから。

M (鼻声で) そう、オネエに見える。

T 止めなさい。気色悪いよー。本当のところを言いますと、僕たち

は同じ大学、同じ学部、同じゼミナールの同期生なんですよオ。

M まったく血縁関係はありません。

M 今のところ、肉體関係ありません。

T これからもあつて堪たるか！

T こいつとは腐れ縁くたです。

T こいつとか、腐れ縁、つてなことは言わないでよ。

M 僕たちの芸名T&M、この意味はですねエ……。

T あア、これもよく訊かれるんです。名字かア、とか名前の略かア

つて。

M そう。Takeshi & Masakiとか。

T 違うねエ。

M Tara & Masuoとか。

T タラとマスオ、それは「サザエさん」の世界だろ。

M Takako & Masakoとか。

T また、女になつてる。

M 実は、このT&Mは僕たちの名前ではありません。大学の恩師の

イニシャルです。

T 今どき、君も言い方が古いねエ。

M どこが？

T オナシなんて、江戸時代の武士のように。

M 違う、お世話になつた先生のことをオ・ン・シと呼ぶだろ。その

恩師の名前をもらいました。

T もらったんじゃない。先生がT&Mにしなさいって、付けてくれたじゃないかア。

M ごめん、付けてくれました。大学の先生って聞くと、難しい本を読んだり研究ばかりしているイメージがあると思いますが、僕たちの先生はちよつと違うんです。よく聞く専門バカではありません。

T バカは君だよ。単なるバカ！
M 僕のことはいいいから。

T 恩師の先生は興味の範囲が広いんですよ。

M たとえば、専門の本や論文を書く一方で、小説や戯曲、漫才、落語の台本、ショート・ショートも書いてるんです。ペンネームも持っているそうです。すごいですよ。

T そうそう。二足の草鞋わらじを履はいているんです。
M 先生は男のくせに冷え性ひやせいで。草鞋を二足も重ねて履はいてるんです。

T おいおい、意味が違うよー。今どき、草鞋を履はいてる人はいないー。
M 君から厚手の靴下を履はくよう伝えてあげてエ……。草鞋わらじじゃなく、スニーカーでも……。

T おい、君！ 二足の草鞋わらじっていうのは、そんな意味じゃないだろ。
M (語気、強く) じゃア、君はワラジ虫わらじむしのあのモジャモジャした足が二本しかないって言いいたいのかア？ その他は手かア？

T 違うだろ。二足の草鞋わらじっていうのは、二つのことで優あれているってことさ。大谷翔平君おおたにしやうへいのような二刀流にとうりゅうのこと。どっちの仕事をしても十分に稼かせげて、食くっていけるってことだよ。

M へーッ。そうだったんだア。
T で、先生は、ご自分が高校生こうこうせいのとき、本当は芸人げいじんになりたくて、

M 吉本興業へ就職しゅうしょくしたかった、って言いってたよね。

T うんうん、聞いたこと、あるある。
M 先生はひょうきんな高校生こうこうせいだったそうで、周りのみんなを笑わわせるのが大好きでエ。

M それで吉本へ。

T で、担任の先生に相談したら「君はすぐにでもメジャーデビューできる素質そしつがある。だから慌あわてないで、大学へ進学しんがくをして、もっと勉強べんがくをしてから芸人げいじんになれ」ってアドバイスアドバイスをされたって。

M そうそう、そだねー。
T そだねー、少し流行はやったねー。二〇一八年の一月から四月にかけて、期間限定期間限定でエ。

M 先生はこの世の中を落語らくごや漫才まんざいのように「シャレしゃれで生きてみたい」って言いってたよな。
T シャレしゃれで生きるなんて関西人かんさいじんじゃないと理解りかいできないだろうけど。そうそう。

T 「こんにちは」という挨拶あいさつを「こんつわア」って落語らくごの中の若旦那わかつ旦那ふうふうに言いってみたいって。
M でも、周りはまじめくさった人間にんげんばかりしかいないって。

M まあ、そんなふうふうに思おもわせるほど組織しゅうしんや人間関係にんげんかんけいが殺伐ころはつとしていいる場面ばめんが多おほすぎるってことらしいけどオ。
T 「おもしろきこともなき世よをおもしろく」ってことだね。

M うん、高杉晋作たかすぎんさくの世界せかいだア。
T そう。
M 先生は、芸人げいじんになる夢ゆめを諦あきらめきれないまま、ずっと研究者けんぎゅうしゃをしてきたって。

M だから、若いときから、漫才まんざいや落語らくごのテープテープを取とって、聴きいたり、

T 台本を書き溜めてきたって、ねエ。
 T だから、僕たちが漫才師になりたいって相談したら、トコトンやりなさいって。
 M 思い切り、背中をドツかれてエ。痛いゝ痛いゝ。
 T ドツかない、ドツかない。ドツかれたのと違う。背中を優しく押してくれたいの。
 M それで、コンビ名をT&Mと付けてくれてエ。
 T 先生のイニシャルだよ。
 M 僕たちは先生の夢を実現するべく、夢を背負って漫才をしてるのです。
 T そう、そのとおり。
 M でも、一度だけ、キツイ言葉を二ついただいたよね。
 T ええッ？ 何だったけなア。
 M 何だったけなア、じゃないよ。君、もう忘れたの？
 T 忘却とは……。
 M ボウゝとしてるから、忘れるの。
 T だから、何よ。
 M あれ、あれ、あれだよー。
 T あれ、あれ、あれだよー、って何？ 君も忘れてるじゃないかア。
 M 思い出したア。一つ目が社会派漫才師を目指せてエ。
 T 社会派漫才師？
 M それにこんなこともおっしゃってたよ。
 T なんてこと？
 M 古典落語はあるけど、古典漫才はないって。これが二つ目の言葉だったよ。
 T あア、思い出したよ。後の世まで残る漫才をしなさいって、ねエ。

M そうそう、それ。
 T ここで使うんだア。
 M そだねゝ。
 M でも、君はあのとときの先生の言葉の真意を理解しているかい？
 T 言葉の真意、本当の意味ってことね。
 M そうだよオ。
 T うーん、どんな真意なの？
 M 思い出しなさいよオ。「最近の若手の漫才を観ていると、ネオンサインのような漫才ばかりだア」って、おっしゃってたでしようがア。
 M ネオンサイン。暗闇にピカッ、ピカッと光っては消え、消えては光る……。
 T そんなはかない、一時的に光るものじゃなくて、後の世まで光輝く、語り継がれる漫才をする漫才師にならなさいって。こう励まされたんじゃないかア。
 M そうだったア。いや、そだねゝ。(泣)クッククック。
 T 君ねエ、泣く前に先生に言われたことを一つでも実行しなさいよ。社会派漫才師ね。古典となる漫才ね。薄っぺらい漫才じゃなくて、中味の濃い漫才ね。
 T そう。先生は言ってくれたよオ。君たちは経済学を勉強したのだから、世の中にある経済問題をテーマとする漫才に「笑い」を取り入れて、聴いてくださるお客様にも一緒に問題を考えていただくようなネタのできる漫才師を目指しなさいって。
 M そうそう、確かに今の漫才はワーツと笑わせて、はいー、終わり！って感じだよ。
 T 漫才なんて、しょせん笑っていただいて、お客様にストレスを解

M 消してもらえればいいんだけどオ。

M それじゃア、いつまで経っても漫才師の社会的地位が上がらない
つて。

T 先生は、そこまでは言っていないよオ、言っていない。先生は自分た
ちにしか作れない「笑い」を作りなさいって言ってたんだよ。

M やっぱり、研究者だよねエ。自分たちの独自の笑いを作れなん
て、ねエ。

T そこで、僕が先生に訊いたじゃないか。

M 何て？

T それも忘れたの？

M 忘却とは……。

T そこでもボウとしてたか。

M だから、何てエ訊いたの？

T 訊いただろ、社会派漫才、どこから手を付ければいいですか、つて。

M そうしたら、うちの娘には手を付けるな！ つて、怒られてエ。

T その手じゃないよ。君たちが作成した卒業論文のテーマを漫才に
してごらん、つてさア。

M (客席へ向かつて) やつと、今日のこの漫才、本題にきましたよ。
きましたよ、じゃない。僕たちの卒業論文のテーマは日本人の
働き方がテーマだっただろ。

M そうそう。僕は日本人の働き方の変化というので、非正規労働を
テーマにした。

T 僕は年金を支給されている高齢者でも働きたい、働いていること
の真の意味、理由をテーマにした。

M うん、そだね。

T (しらっと) で、今日はそのテーマを漫才にしてみよう。

M でも、二つも漫才できないよ。持ち時間をオーバーしちゃう。

T じゃア、君よりもきつといい評価をもらった僕のテーマにしよう。
高齢者の働き方について。

M (少しの間) 君、卒論の評価は？ 成績は？

T うん、僕はAをもらったよ。最高点だよ。

M え(A)！

T 何を驚いてるの。じゃ、君の評価は？

M (人差し指を唇に当て) シー、シー。

T シー、シーじゃない。幼児にオシッコをさせてるわけじゃないか
ら。隠さないで公表しなさいよ。僕は、公表したのだから、君
も……。

M だからア、シー。

T シーつて、アルファベットのCかい？

M そうだよオ、C。

T それつて、最低点でしょ。

M でも、単位はもらったから(笑)。

T まあ、いいかア。

M ということで、ここからは自分と堅苦しい漫才になります。
いいんだよオ。やつてみなきゃ分かんたか？

M (客席へ向かつて) みなさん！ 今日笑わずにノートをとって
帰ってくださいよ。笑うと笑、笑(承) 知しませんから。
何をシャレてるの。そんなお願いをしなくてもいいだろ。
分かった、分かったよオ。本題へ入ろう。

T うん。

M そもそも高齢者つて、何歳からなの？

T うん。これは常識だね。六十五歳以上と定義されている。

M 六十五歳に意味があるのかねエ。何かをするのに丁度いい好^{こう}齢^{れい}者^{しゃ}って。

T 高齢と、いい(好)齢(とし)のシャレのつもりね。

M はい。分かってくれたア。

T 分かるよ。でも、深刻な漫才なんだから。

M そだね。ごめん！ じゃア、日本にどれくらい六十五歳以上の

T お爺ちゃん、お婆ちゃんはいいるの？

M その前に、お爺ちゃん、お婆ちゃんは失礼だよ。

T だって、早い方だとお孫さんもらっしやるだろ？

M いるだろうけど、まだ、現役で働いてる方もいるから。

T 親しみを込めて、さア。

M で、総人口に占める六十五歳以上の高齢者は二十八・七%

T (二〇二〇年九月現在)で、人数で見ると、三六一七万人。なん

M とこれが世界最高。他の国よりも突出して高く、ドンドン増えて

T いる。

M ちなみに日本の次はどこ、どこの国なの？

T イタリアで二十三・三%、その次がポルトガルで二十二・八%だよ。

M 日本は高齢を越えて、超高齢社会になりつつあると。さつき、ド

T ンドン増えるって言ったけど？

T うん、よく聞いていたね。高齢化率は上がるよ。七十一年か

M ら七十四年生まれの第二次ベビーブーム世代が高齢者(六十五歳)

T となる二〇四〇年には三十五%を越す見込みだそうだよ。

M へーッ！

T こいてんじゃないよオ。

M ……?

T んんッ。いいかい？ 人生一〇〇年時代、一〇〇歳まで生き

(一一)

るって時代だから。事実、一〇〇歳以上の人は、昨年よりも

T 九一七六人増えて、八万四百五十人もいるんだ。そのうち女性が

M 七万九百七十五人で全体の約八十八%を占めている。国内の最高

T 齢者も女性で百十七歳だぞ(二〇二〇年九月十五日)。

M へーッ！ そんなにいるんだあ。

T また、こいてエ。

M ……?

T 日本人の平均寿命も伸びている。

M たとえば？

T たとえば、男性が約八十一歳、女性が約八十七歳(二〇一六年)

M だから。

M 六十五歳なんて、まだまだ若いんだア。

T だから、さつき、お爺ちゃんとかお婆ちゃんとか呼んじゃア、失

M 礼だって言ったのさ。

M なるほど。それで君は卒論でこの高齢者たちの働き方をテーマに

T したんだよね。

T そうそう。問題点のみをまとめただけでも、最高点のAをもらっ

M た卒論。立派なもんだア。

T 評価はもういいから。(人差し指を唇に当てて) シー、シー。

M なぜ、歳をとってからも働くのか、働かなければならないのか？

T どんな理由があるの？

M いくつか論点がある。

T うんうん、そんな日は会社へ行きたくないよ、誰だってエ。気分

M が減入るもの。

T 会社？ 気分？

M 朝起きて、天気が悪いときア、バイオリズムが壊れてさア。

T 天気が悪い? どうして?
曇天。曇った日。
M 違うよ! ろ・ん・て・ん、だよ。論点。
T あゝア、論点ねエ。
M 一つは少子化で働き手が少なくなっていること。
T それでエ、お爺ちゃんやお婆ちゃんに働いてもらおうと。
M だから、さつきも注意したけど、お爺ちゃん、お婆ちゃんは失礼だつてエ。
T あア、ごめんごめん。でも、会社はお年寄りを雇いたくないだろ?
M そんなことはない。働き手が少ないから、大切な人材だよ。
T 大切な人材かア。
M 国もルール(「改正高齢者雇用安定法」二〇一三年)を作つて、雇うよう義務づけているんだ。
T どんな義務?
M 三つあつてエ、一つ目は定年制を撤廃すること、二つ目は定年を六十歳から六十五歳へ引き上げること、三つ目は再雇用制度で雇い続ける。このうちのいずれかを実施しなさいつてことだよ。
M はッはッ。きつと定年前よりも安い給料の再雇用制度や不安定な非正規で雇つてゐるんだろ。
T そうそう。人数でみると、従業員五十一人以上の会社での六十歳以上の労働者数は二〇〇五年に一〇五万人だったものが二〇一五年には二七六万人にまで増えている。日本全体で働いている人、つまり就業者数は約六四六五万人(二〇一三年)いるのだけど、そのうち、六十から六十四歳が八・一%、六十五から六十九歳が六・九%、七十歳以上が五・一%もいるのさ。(高齢者の就業者数は十六年連続で植えている。二〇二〇年九月現在、八九十二万人。

M これを就業者全体に占める割合でみると、十三・三%。役員を除く雇用者は五〇三万人で、うち七十七・三%は非正規雇用である。)六十から六十四歳が一番多いんだア。
T これは六十五歳から年金が満額支給されるので、それまでの間は働こうという人が多いつてことかな。
M 年金かア。事務処理をめぐつて、国はしよちゅうチョンボしてるから、若い人たちは信用してないよ。
T 確かに、そんな問題もある。で、六十から六十四歳の男性が働く理由を訊いてみると……、どんな理由が多いと思う?
M 理由? 管理職に就いていた人が多いだろうから、うくん、つと、そうねエ、いつまでも威張つていたいから、とか?
T 君ねエ。どこかの国の政治家じゃないんだから。
M (笑)どこかの国つて、どこ?
T 分かるだろ、君も……、住んでいるのだから。
M どこよ。
T そら、いるだろ。いつまでも政治家している人。地位にへばり付いている人。
M あゝア、いるいる。いるなア。こんな人もいるぞ。
T どんな人?
M 総理大臣をした後も大臣をしている。
T その人は大臣だけじゃなくて副総理も兼務しているよ。
M いいかげん、引退できないかねエ。
T あそウ。
M そう、その人。
T あの人にも個人的な都合があるんだろうよ。
M (笑)個人の都合で政治をされても、国民は迷惑してますつてエ。

- T それはもういいから、話題を戻そうよ。
- M そだね。働く理由はア、長寿になったから、「健康のため」とか「生きがいのため」とか、かな？
- T そんな穏やかな理由なら、ほとんど問題ないよ。
- M ジャア、どんな理由さア。
- T 「生活の糧を得る」とか「経済上の理由」を挙げる人が半数以上を占めている。
- M 年金をもらうまでの間だから、収入を確保するってことね。
- T そうだろうね。
- M 「健康」とか「生きがい」は？
- T 二番目、三番目の理由だよ。
- M そっかア、でも、さっき六十五歳以上になっても働く人が多かったけどオ、年金っていくらもらえるの？ 納めた金額を回収できるのかい？
- T それは現役のときの給与額に応じて納めた金額にもよるけど、六十五歳で支給される人の平均的な金額を計算するとだね。
- M 計算するとオ？
- T 四十年間サラリーマンだった男性で年約一九〇万円程度、現役時代に給与の高かった人でも年二四〇万円ほど。
- M 少ないなア。
- T 配偶者がいればその年金も世帯の収入となる。たとえば、奥さんが働いていたとして年一二〇万から一八〇万円、専業主婦であれば八十万円ほどと見込めばいいよ。少ないほうで見積もると、六十五歳以降年二七〇万円ほどの収入で生活することになる（朝日新聞、二〇一八年二月二十六日）。
- M それで足りるのかい？
- T 足りないから、それを心配して働いてるのさ。また、足りない部分はそれまでに貯めてきた貯金を取り崩すことになるだろうねエ。
- M そっかア、若いうちから貯金もしないとなア。孫ができると、オモチャや洋服を買ってあげることもあるし……。
- T そう。年金生活が始まって、国民健康保険料や介護保険料を納める義務もあるしね。出費ばかりさ。
- M （真剣に）金、金、金って念じてても金はどこからも出てこないし。今度は年金と念じる金でエ、念金のダジャレね。
- T 歳をとれば、自ずと医者にかかる機会も増えるだろうし。
- M そう。一人当たり年額の医療費をみると（二〇一四年）、十五歳から四十四歳で十一・七万円だけど、六十五歳から六十九歳になると四十八・四万円、さらに八十歳から八十四歳だと九十二・六万円にもなる（朝日新聞、二〇一七年八月二十六日）。
- M 明らかに、歳をとるとともに医療費はかかるんだア。
- T そうそう。基本的なところで、年金生活者を圧迫してるんだア。
- M どういうこと？
- T 医者に診てもらったときに払う医療費の一月当たりの自己負担額が七十歳以上で引き上げられたんだ。
- M どれくらい？
- T 年収が約三七〇万円未満の人で一万二〇〇〇円から一万四〇〇〇円。
- M ごめん、どういうこと？
- T 一万四〇〇〇円以上かかると、超えた額が高額療養費として支給されるのさ。
- M ジャア、二〇〇〇〇円のアップだから、逆に二〇〇〇円ももらえないってことだよな。

T そうなるよ。

M 決まった収入しかない年金生活者にはキツイなア。

T パンツのゴムがキツイと腰の筋肉に食い込んで痛いゝ痛いゝのと

同じだア。

M うまい例えだねエ。

T ところが、キツイのはパンツのゴムだけじゃない。

M ええッ。まだあるの？

T 介護サービスを利用したときの自己負担額も引き上げられた。

M うゝン、それもかア、さらに年寄りを苦しめるゝで、どれくらい？

T 単身で年収が約三八三万円未満だと三万七二〇〇円から

四万四四〇〇円になったんだ。

M うゝン。歳をとつても負担ばかりが増えて、病気にもなれない、

介護サービスまでも……。

T だからさア、さつき言ったように、家計を支えるために働いてい

るのさ。

M これじゃア、死ぬまで働けつてことかい？

T もっと深刻なのは六十五歳以上で生活保護を受けている人の数が

多いつてこと。

M 生活保護？ 憲法で最低限度の生活を保障する……。

T 二〇一五年でみると、約九十六万七五二二人いる。で、このうち

年金のない人が五十一%もいる。年金があつても十万円以上の人

はわずか二%しかない。一万から三万円が十九%、四万から

六万円が十七%、七万から九万円が八%となっている。

M 年金のない人つて、働いていたときに年金を納めてこなかったつ

てことね。

T そだねゝ。

M でも、もらえる年金は少ないし、医療費はかかるし、これじゃア、

生活保護を受けたいよゝ、歳をとつてから生きていく上で余りに

も負担が重すぎるものゝ。

T そだねゝ。

M そだねゝ、じゃない。老いても働かなきゃならないわけだア。

T そう、老いても働かなきゃならない！

M まさに、老働^{ろうどう}だアゝ。

付記

『朝日新聞』二〇一七年八月二十六日、二〇一八年二月二十六日、二〇二〇年九月十五日、二十一日参照。統計数値は脱稿時(二〇一八年四月八日)のものが多い。ご寛恕願います。なお受益者からすると、社会福祉に関わる統計数値は悪化するばかりである。

3. 漫才「コンサルティングします」

— 漫才コンビ(けいと&まさと)が舞台へ登場する。

けい 君。聞くところによると、漫才以外に副業で商売を始めたつてか？

まさ もう、知れ渡つてるかあ。噂が伝わるのは速いなあ。ほんま世間は怖いわ。漫才、儲からんなあ。

けい 君がお客様にワーつて笑つてもらえるよう努力せんからやないかあゝ。

まさ (相方の側頭を軽く張つて) そういう相方のお前も同罪や。ハ

(了)

ツハツハツ。

けい 笑うな。まあ、ええわ。漫才はこれから頑張ればええ。で、どんな商売を始めたんや？

まさ よう訊いてくれた。コンサルティングだよ。

けい 何？ そのジャングルから来ん猿まきがチン打ったって。

まさ ジャングルから来ん猿やない。コンサルティングだよ。色々とお客さんの役に立つアドバイスをして、お金を貰うんや。

けい どんなことでもアドバイスしてもらえんかい？

まさ (自信あり気に) もちろんや。お前が楽屋で寝てるうちに一生懸命、勉強してるから、何でもアドバイスできる。

けい そうかあ。じゃあ、一つ相談に乗ってもらおうかな。

まさ ええよー。どうしたんや。他でもない相方からの相談や、聞いたるわ。

けい そうかあ。ありがとう。(まさが手の平を上にして差し出す)何、その手は？

まさ 手付金、くれんかい！

けい ええーッ。手付金、そんな金取るんかい？

まさ そうや。遊びと違う、商売やからねエ。

けい いくらや？

まさ 君は相方だから、五〇〇〇円でいいよ。

けい 高いなあ。

まさ 元手がかかっているがな。漫才のネタ合わせを休んで考えてるかなあ。

けい おい。それはないやろ。漫才が本業だろ。じゃあ、払うよ。(ポケットから財布を出す仕草) はい、五〇〇〇円。

まさ (金を受け取る仕草) はい。確かに手付金はいただきました、と。

で、どんな相談？

けい うちの小学校六年生の息子のことなんやけど。

まさ あーア。あのアホで鼻垂らしの息子かい。

けい アホは余計やろ。鼻は垂らしてない。自分の息子や、可愛いかなア。

まさ ごめんごめん。で、その可愛い息子がどうしたの？

けい 十月に運動会があるんやけど、そこで今年もクラス対抗リレーに出るんやが、去年、アンカーを任されて走ったんやがア。

まさ ほーほ。やっぱり、アホやんかあ。

けい 何でやねん。

まさ アカンやろ。

けい 違う。アンカーや。リレーで最後に走る走者のことや。格好ええ役柄や。

まさ それで。

けい 去年、このリレーが終るまでは息子のクラスが総合点で一番だったそうなんだ。ところがや、リレーで息子は他の走者に抜かれ抜かれて、ビリになってしまったんやな。

まさ ビリって一番遅かったことだよな。

けい そう。それで、総合点が二点足らなくて、準優勝で終わったんだ。わずかに二点やで。子どもたちは悔しいがな。この二点が。

まさ 準優勝でいいと思うよ。

けい でもな。子どもやないかあ。クラスの雰囲気、悪くなるがな。

お前のせいで優勝できなかった言うて、なじられたんや。その光景を思うと、親としても辛かった。(泣) クッククック。

まさ 泣かなくてもいいだろうが。じゃあ、今年もリレーに出なきやいいだろ。

けい ところがや、他に走る子がおらんかったそうや。みんな責任重大やうって、おもうたんやろな。そこでクジ引きで決めようってことになってエ。そうしたら、運悪く、息子に決まってしまう。うちの子、身体はでかいけど、おれら夫婦に似て、運動神経が弱いんや。

まさ 運動だけじゃないだろ。ぜんぶ、白状せい！ 君の息子は、頭も弱い、弱い。鼻も垂らしてる。

けい おい、他人の君が僕の息子の頭のことは言うなよ。鼻は垂らしてないって！ でな、毎日、学校から帰ってくると、公園で走る練習してるんやけど、ちっとも速ようならんのか。見てると可愛そうだなあ。(泣く) クッククック。

まさ 泣かなくてもいいって。で、僕にどうして欲しいのよ。

けい だから、速く走るコツとか方法を教えて欲しいんだよ。今年は、ビリでない息子の笑顔が見たいと思うんだあ。

まさ 分かった。じゃあ、幾つかアドバイスするよ。(手の平を上にして差し出す)

けい 何、その手は？

まさ アドバイス料金は前金でいただきます。

けい まだ、教えてもらってないよー。

まさ 教えてから、払うの嫌だーっていう人もいるからねエ。

けい 僕は相方だよ。信用してくれよー。

まさ そういう人ほど信用できん。(手の平を突き出す) 前金、五〇〇〇円、ちょうだい。なお、一度、支払われたお金は返金いたしませんのでご了承ください。

けい ええーッ。返金なし。高くないかあ？

まさ じゃあ、この相談、止めるかい？ 可愛い息子、またビリかな

あゝ。

けい 分かったよー。払うよ。はい。(財布からお金を出す仕草)で、どうすればいいの？

まさ (受け取る仕草)はい。確かにいただきました。速く走るには、まず動作が大切だよ。リオ五輪の四〇〇メートルリレーで銅メダルを獲得した日本人アスリートたちを見てごらん。みんな足を腰の高さまで上げて、両手をしっかり振ってた。ああいうふうに走ればいいんだよ。

けい それくらいのは分かってるよ。息子もやってるよー。何度も何度も練習してるよ。でも、上手くないんだ。

まさ (しらっと) じゃあ、止めれば。才能がないと諦めるんだな。

けい それじゃア、アドバイスにならないでしヨ。

まさ じゃア、次のアドバイスはどうか。(手の平を上にして差し出す)

けい 何よ。この手は？

まさ 別のアドバイスになるから、追加料金をもらうことになってます。

けい ええーッ。さっきのあれはアドバイスじゃないでしヨー。

まさ 止める？

けい 分かったよ。聞くよ。いくら？

まさ はい。五〇〇〇円。

けい またかい。しょうがない。(財布からお金を出す仕草)

まさ (受け取る仕草) はい。確かに、いただきました。

けい どんな方法だよ。早く教えてよ。

まさ そう焦らないの。その焦りを足の運びに連動させればいいんだけどなア。うん。そうだな。走りは形から入ったほうがいいか

もね。

けい う〜ん。形。日本人的だね。

まさ そうだろ。僕らは日本人だ。でもいいことがあれば、それが外国人であっても真似をすべきだと思うよ。

けい うんうん、僕も同感だよ。

まさ だろ〜。で、顔をフェイスペンで真っ黒に塗りなさい。(なげやりに) なきゃあ、絵の具でもいいから、塗っちゃいな。

けい ンんッ。なぜ、塗るの？

まさ なぜって、君。ウサンクサイ・ナットってアスリート知ってるだろ。

けい 違うよ。あれはウサンクサイ・ナットじゃなくて、ウサイン・ボルトだよ。

まさ どっちでもいいんだ。どちらも締めるものなんだから。

けい 違うよ。人の名前だから間違えちゃいけないよ〜。で、アドバイスは？

まさ ボルトのように顔を黒く塗って走るんだよ。ボルトになった気分で走るんだあ。他の子どもたちはボルトには敵わないって、諦めるだろ。

けい そりゃア〜ないよ。いくら形から入るって、言ったて〜。

まさ これでも納得しないかい。しぶといねえ。

けい (怒った声で) するわけないだろ。追加料金を返してくれよ！

まさ 返金はしないって最初に言ったよね。じゃあねえ〜、次のアドバイスは……。

けい ええッ。まだアドバイスしてくれるの？

まさ ああ。君の可愛い息子を泣かせたくないからな。

けい 今度はおだてるのかい。その手できたか。じゃ、お願いするよ。

(一八)

まさ (手の平を上にして差し出す) はい。追加料金五〇〇〇円。

けい またかよ〜。さっき払ったじゃないの〜。

まさ うちのアドバイスごとにお代をいただいております。

けい しょうがない。はい。(財布からお金を出す仕草)

まさ (受け取る仕草) はい。確かに、いただきました。

けい で、今度はどうなアドバイス？

まさ うん。君の息子の平熱はいくらかな？

けい おい。僕の息子は風邪を引いて医者に診てもらわなければならない。早く走りたいのよ。息子の平熱を聞いてどうすの？

まさ だから素人は困るんだな。走る速さと体温は大いに関係があるんだよ〜。科学的に証明されてるんだ。このバカ者め〜。

けい そんなに怒らなくてもいいでしょ。僕はお金を払ってるんだから。

まさ あア。そうだった。大切なお客さんだったよね、君は。

けい で、体温だけど、ふつう、三十六・五度くらいだと思っただ。

まさ ちよつと低すぎないかい？

けい そんなことないよ。よく言うだろ。平熱って、三十六・五度くらいだって。

まさ (しらっと) まあいいよ。(話題を大きく変える口調で) ある研究によると、体温の高い魚は泳ぎが速いと……。

けい (相方の肩を小突き) ちヨ、ちヨッと待ってくれる。

まさ どうしたの？ 一生懸命、アドバイスしてるのに？

けい 僕は、速く走る方法を知りたいのよ。魚が泳ぐことには興味ないから。

まさ どこまでもバカだねえ。関係あるのよ〜、魚と人間は。黙って

聞きなさい。で、多くの魚の体温は水温とほぼ同じなんだ。例

えば、水温が二十度の池にいる鯉の体温もほぼ二十度なんだよ。でも、日本近海で獲れるマグロ類(クロマグロ、キハダ、カツオなど)は水温よりも体温が高いんだな。周りの水温よりも五から十五度も体温が高い。そこでだね。マグロの泳ぐ速さとその遊泳範囲を調べてみると、他の低体温魚類よりも泳ぐ速さが二から三倍速かった。かつ遊泳範囲も日本近海から太平洋を横断して、八〇〇〇キロも離れたカリフォルニア沖にたどり着き、また日本近海へ戻ってくるんだぞ。マグロは一〇〇メートル走者とフルマラソン走者の両方の能力を身に付けているんだな。だから速く泳ぐには、体温を上げることが大切なんだよ。分かったかい？ 僕はこれほどの知識をもつて……。

けい (相方の方を小突き) ねえねえ。マグロの話は分かるけど、息子の徒競走は土の上を走るんだよ。海の中を走るわけじゃないから。

まさ じゃア、君が分かるように例を示してあげよう。

けい どんな？

まさ かつて日本のプロ野球で阪急ブレーブスっていう球団があったよね。

けい うん。米田投手とか、山田投手なんていいピッチャーがいたよね。
 まさ 僕が説明したいのはピッチャーじゃなくて、野手の福本……、福本……、なんてゆうたかなあ。歴代一位の通算盗塁数が一〇六五盗塁の福本……、なんてゆうたかなあ。

けい それは福本豊(ふくもと・ゆたか)選手のことや。なに「ゆうたかなあ」ってシャレてるのよ。

まさ そうそう、ゆたか。あの福本選手なんかも累上で体温を高めてから、盗塁をしてたんやでえ。

けい ヘーッ。塁上で、どうやって体温上げてたん。

まさ 一塁へ出るやろ。(動作をする) リードを普通の選手よりも大きく取って、ピッチャーに盗塁するよう見せかけるんやな。ピッチャーは牽制球を投げる、福本選手はさつと塁へ戻る。

けい (声に調子をつけて、動作をする) ♪アウト、セーフ。よよいのよい♪と。

まさ 君ねえ。いいところなんだから、ちゃかさないでよ。

けい ごめんごめん、野球と言われるとついねえ。

まさ 福本選手はまた大きくリードする。ピッチャーは牽制球を投げる。また福本選手はさつと塁へ戻る。これを繰り返すと、福本選手は自ずと汗をかき、体温も上がってくる。上がりきつたところで、さつさつと盗塁して成功させてたんや。これからテレビで放送を観るときは、こういう視点から観てごらん。参考になるよ。

けい おい。それ、ほんまかい？

まさ (威張ったように) だから、速く走るには体温を高める必要があるという結論になる。

けい じゃア、今の話はマグロと福本選手を結びつけたんかい。

まさ そうやがな。

けい じゃア、息子はどうやって体温を上げればいいんだア。

まさ (しらっと) 風邪を引くとかア。

けい おい。風邪を引いた子どもを走らせられるかア。走る前に倒れるでえー。

まさ (しらっと) そのときは早く、救急車で運びなさい。

けい 冗談、止めて！ 高い金払ってこの程度のアドバイスカい？

まさ まだ、満足しないようだね。君は相当にしぶといんだなア。

よし。分かった。こうしよう。(手の平を上にして差し出す)
けい 何。また金取るんかい？
まさ これが最後だよ。これなら君も納得するはずだ。僕もプロとしての意地がある。
けい ほんまかい？ ジャア、これが最後の。(五〇〇〇円を出す仕草)
まさ (受け取る仕草) はい。確かにいただきました。
けい で、どうすれば速く走れるのよ？
まさ いいかい。速く走るには……。
けい 速く走るには〜。
まさ 足を腰の高さまで上げて、手を大きく振って、顔を真っ黒に塗って、風邪で体温を高くしてから走ればいいよ〜。
けい お〜い。お〜い。今度ばかりは待ったれや。お前！ これまでの話をぜんぶ合わせただけやないかア。ほんま、取るもんだけ取って商売(しょうばい)、上手いなア。
まさ そうだろ。徒競走には勝敗(しょうばい)がつきものだよ。
けい 違うがな。お前の商売のことや！
まさ 君。最初に言うてたやろ、二点足らずに負けたって。二点差の間違いや。
けい うん。そうや。言うたよ。
まさ そこでや。商売の「ば」のテンテンを二つ除^とってみい。
けい (考えるように) しょうばい、になるなあ。(自嘲気味に) ハッハッハッ。
まさ そうやろなあ。

(了)

付記

マグロの体温については、渡辺祐基「マグロの真実」『2017 ベスト・エッセイ』光村出版、2017年、37〜39頁所収。

